

法財團名和昆蟲研究所基本金募集中旨書

近時我國人口の遞加著しく、百物の需要昔日に倍蓰するものあり、隨て栽培植物の實收を増加し、品質の改良を促進する必要は刻下急務に屬すると言ふはざるべからず。而して植物の實收を増加し、品質の改良を促進するは天與の發達を妨害する諸種の害蟲及病菌の故障を除去するの途を講するより急なるはあらざるべし、若一朝氣候の變異等に依り是等害蟲或は病菌の豐來發生するに遭へば、鬱々たる森林、穫々たる田野も、花葉乍ら凋落し、根幹乍ら枯損して其品質を劣悪ならしめ、若くは其の產額を減耗せしめ、甚しきは野に寸青を留めざるの慘害を見るに至るべく、爲めに毎年約壹億五千萬圓を下らざる損害を被むるは統計の示す所人をして慄然として夏尙寒きを覺えしめんばあじず、則ち驅除豫防の方法を講じ、以て慘害を除き禍根を絶つに非れば如何に栽培種藝の方法其の宜しきを得るも、徒に勞苦を贏ち得るのみにして莫大の経費を擧て水泡に歸せしむるの恨事なしとせず、是れ不肖等が財團法人名和昆蟲研究所の爲めに基本金を募集し以て國家經濟の大本を培養する此種事業の完整を企てんとする所以なり。

蓋し財團法人名和昆蟲研究所は、昆蟲並に害蟲驅

除豫防事業の講究を目的とし設立せられたるものにして、現所長名和靖氏は明治十五年以降今日に至る三十有餘年一日の如く心血を注ぎて斯業に盡瘁し家産を擧て之が資に供し同二十九年四月獨力昆蟲研究所を創立し、害蟲驅除病菌根治及益蟲保護に關し夙夜孜々として躬ら山野田疇を跋涉し或は人を派し學術資料の昆蟲を蒐集するもの累積して今や其の數二十餘萬に達し、標本壹萬有餘種を算するに至り、其の他歐米各地と交換したる奇種珍類亦夥からず、若し其の萃を抜くに至ては斯道に於て國寶と稱すべきものなり、其他氏が事業の擴張に熱心なる或は圖書ヶ月行して斯學の普及を計り、或は講義を開きて後進を教育し、若くは實地に臨ひ實物に就き當業者を啓發する等一にして足らず、今や受講生は全國三府四十三縣臺灣、樺太、朝鮮及滿洲を通じて二萬有餘の多さに達す、其の學界に貢獻し實業を補益するの功績洵に著大なるものなり。

夫れ氏は我國に於て未だ昆蟲學の何物ともかく普知せざる時代に當り、之が研究に先鞭を着け、獨力經營萬難を排し実の成績を擧ぐる此の如しと雖も、事業の前途は頗る遼遠に屬し、日新月歩の世間に順應する施設は限りある個人の力を以て能く

之が完備を期すべきに非ず、是に於て明治四十四年二月氏は決然標本一萬二百二十九種、建物九棟基本金壹百八拾餘圓の財産を擧て之れを提供し相謀りて現今の財團法人を組織するに至れり。爾後同研究所は國庫及岐阜縣の補助を主たる財源として幸ふして維持しつゝありど雖も、常に資力窮乏の歎あり、爲めに時運に伴ふの施設を爲すに補助金を以て、此悠久不變の事業を確立せんと欲するは萬全を期するの道に非ざるを以て、茲に基盤とするは萬圓を募集し以て東洋唯一の昆蟲研究を維持發展する百年の大計を定め、國家に貢獻する所の金拾萬圓をも詒くば、朝野有志の士幸に之れを諒らしめんことを義捐せらるゝ所あらんことを。

成
贊

纂集規宗人財團法

農務省農事試驗場長農業學博士
帝國農會長貴族院議員候爵
會計檢音院長法學博士子爵
貴族院議員男爵
貴族院議員君子爵
田中納加
稻芳久
由康次郎直莊郎宜男
島在平尾
大松田田
鳥
關田
彌
忠三
岡田
士
前宮內大臣伯爵
衆議院議員
島三古
島
田
田
中
納
加
稻
芳
由
康
次
郎
直
莊
郎
宜
男
久
元治
郎
直
莊
郎
宜
男
久
元治
士
方
忠
三
岡
田
士
前
宮
內
大
臣
伯
爵
衆
議
院
議
員
島
三
古
島
田
田
中
納
加
稻
芳
由
康
次
郎
直
莊
郎
宜
男
久
元治

盆

子

供

蝶

蝶

(左) 一重籠蝴蝶硝子盆

(中) 盛籠蝴蝶硝子盆



たる美術的製品なり
には二ツケル金具又は竹籠を施し縁ざなし
蝶竜に天然色草花及び絹絲を配置し、周囲
ありては橢圓形、長方形、等之有り寸法の如きも各種御指定に
依り調製仕るべく候

(○) 蝶硝子盆は一枚の圓形硝子板に美麗なる實物
蝶竜に普通圓形にして左記の如き寸法なるも、特製品に
ありては橢圓形、長方形、等之有り寸法の如きも各種御指定に
依り調製仕るべく候

蝴蝶硝子盆定價表

直径
ニツケル
盛籠
二重
籠縁
一重
筒造透斜

一尺	二・八五	一・九〇	一・七五	一・五〇	貳拾五錢
八寸	二・三〇	一・九〇	一・五七	一・四〇	一・二七
六寸	一・八七	二・〇〇	一・五七	一・四〇	一・二七
五寸	一・五五	一・七七	一・五七	一・四二	一・二七
四寸	一・三七	一・〇〇	一・五七	一・四二	一・二七
三寸	一・六〇	一・一	一・五七	一・四二	一・二七
二寸	一・八二	一・一	一・五七	一・四二	一・二七
一寸	一・五二	一・一	一・五七	一・四二	一・二七

(○) 蝶硝子盆は最近の愛明考案に係り、廣く本邦内地に其販路を
有するのみならず、米國を始め浦鹽、香港、南洋、印度等其他各
國に多數の顧客を有し、一ヶ月間に五千個以上の製造力を有す。
き常に細心注意精撲の上製作じたるものなれば、又使用する材料の如
種類に到りては其消費地に依り一定せず、又使用する材料の如
は東洋に於ける、美術品として世に紹介するの光榮を有せり

電 振 警 東 京 一八三〇 銀
一九七
一 重 篷 蝶 硝 子 盆

製 造 元 名 和 昆 蟻 工 藝 部

岐 阜 市 公 園

岐 阜 市 公 園

贈呈祝創立貳拾周年

○創立及株式組織

〔明治三十一年九月養本社を創立せり本年八月にて滿二十ヶ年也其間組織を改善し株式會社養本社となし明治四十二年七月登記申請爾來茲に十年目也〕

○本社の大發展

〔本社は自村の產出する紫雲英種子共同販賣を以て起り紫雲英種子產出本場たる本巣郡產種子販出を以つて株式組織となし今誠全國に於て最多額の種子を取扱に至れり願ひ販路も亦内國各府縣は勿論臺灣朝鮮に輸出するに至れり〕

○社界の温さ同情

〔緣肥栽培及自給肥料の獎勵等能く時勢の要求に啓合せりと雖是れ偏へに各位の甚大なる御同情に外ならずして本社の深く感謝する處なり〕

○贈呈記念品

〔茲に創立二十年祝意を兼ね些少の品なればとも左記の方法により記念品を贈呈以て各位の御同情に對し滿腔の謝意を表す〕

▲紫雲英畫入扇子 壱本 紫雲英種子五斗入壹匁に付必ず一品宛各匁内

▲本社獨特の御手富貴 壱筋 へ封入進呈す但し貳斗以上の端匁も含む

▲紫雲英栽培書 壱冊 七月月中旬相場案内と同時進呈す

○種子は一匁好機選すべからず

前記の通り誠に些少の景品にて慚愧に堪へず候得共産業組合或は農會及び地方の篤農家等にて種子の共同購入被成下場合は勿論商店に於ても多數販賣御勸誘上幾分有利の方法とも相成り可申事と存じ候間何卒此際奮て御勸誘の上本社へ御下命相成り度此段特に御願申上候

自給肥料紫雲英種子採收販賣専業

登録 岐阜縣本巣郡牛牧村
商標 本 株式會社 養本社
振替口座東京一六二一六大阪一五六三

○紫雲英栽培書(何時にても)相場表並に見本種子(毎年七月以後)御申込次第進呈す

寄附金廣告[第貳拾回] 大正六年十月

- 一 金參 圓也 (還) 東京市赤坂區仲之町十番地 正元殿
一 金參 圓也 (還) 東京府北豐島郡龍野川町農事試驗場
一 金參 圓也 (還) 岐阜縣稻葉郡長夏村 正太郎殿
一 金拾 圓也 (還) 岐阜縣木津郡生津村 馬場貞郎殿
一 金拾 圓也 (還) 岐阜縣木集郡船木村 五拾錢也 (還) 吉殿
一 金拾 圓也 (還) 岐阜縣木津郡生津村 貞吉殿
一 金拾 圓也 (還) 岐阜縣木集郡船木村 市殿
一 金拾 圓也 (還) 大坂府濱寺公園 本山壹一殿
一 金拾 圓也 (還) 三重縣鈴鹿郡井田川村 農場殿
一 金貳 圓也 (同) 東京西夕原農事試驗場組合殿
一 金貳 圓也 (同) 岐阜縣木集郡船木村 和廣吉殿
一 金貳 圓也 (同) 岐阜縣木集郡船木村 和百太郎殿
一 金貳 圓也 (同) 愛知縣渥美郡 田野川誠一殿
一 金貳 圓也 (還) 清國南滿洲公主權產業試驗場會殿
一 金五 圓也 (還) 東京市赤坂區三田四町保次殿
一 金五 圓也 (同) 東京市赤坂區三田宅恒方殿
一 金五 圓也 (同) 岐阜縣木集郡船木村 正村祐太郎殿
一 金五 圓也 (同) 岐阜縣本郷郡西郷村 小野逸象殿
一 金五 圓也 (同) 岐阜縣本郷郡西郷村 中榮助殿
一 金五 圓也 (還) 岐阜縣海津郡東江村 桑名伊吉殿
一 金參 圓也 (還) 岐阜市元宿町 善左衛門殿
一 金參 圓也 (還) 岐阜市元宿町 秀四郎殿
一 金參 圓也 (還) 岐阜順慶坑分析研究所 基本金募集人
一 金參 圓也 (還) 小林米次殿
一 金參 圓也 (還) (還) 岐阜市元宿町 秀四郎殿
注意下に記せらるゝ名和所長の還暦を祝する爲め贈のも